

=== T A C S 情報 第5号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和6年6月25日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月の平均気温は、17.9℃（対平年差+0.4℃）と平年並であった。

6月上旬の平均気温は、20.0℃（同-0.3℃）と平年に比べ低かった。

6月中旬の平均気温は、25.1℃（同+3.8℃）と平年に比べかなり高かった。

(2) 降水量

5月の降水量は、228.5mm（対平年比186%）と平年に比べ多かった。

6月上旬の降水量は、25.0mm（同118%）と平年並であった。

6月中旬の降水量は、7.5mm（同15%）と平年に比べかなり少なかった。

(3) 全天日射量

5月の平均全天日射量は、18.0MJ/m²/日（対平年比98%）と平年並であった。

6月上旬の平均全天日射量は、20.5MJ/m²/日（同105%）と平年に比べ多かった。

6月中旬の平均全天日射量は、24.6MJ/m²/日（同144%）と平年に比べかなり多かった。

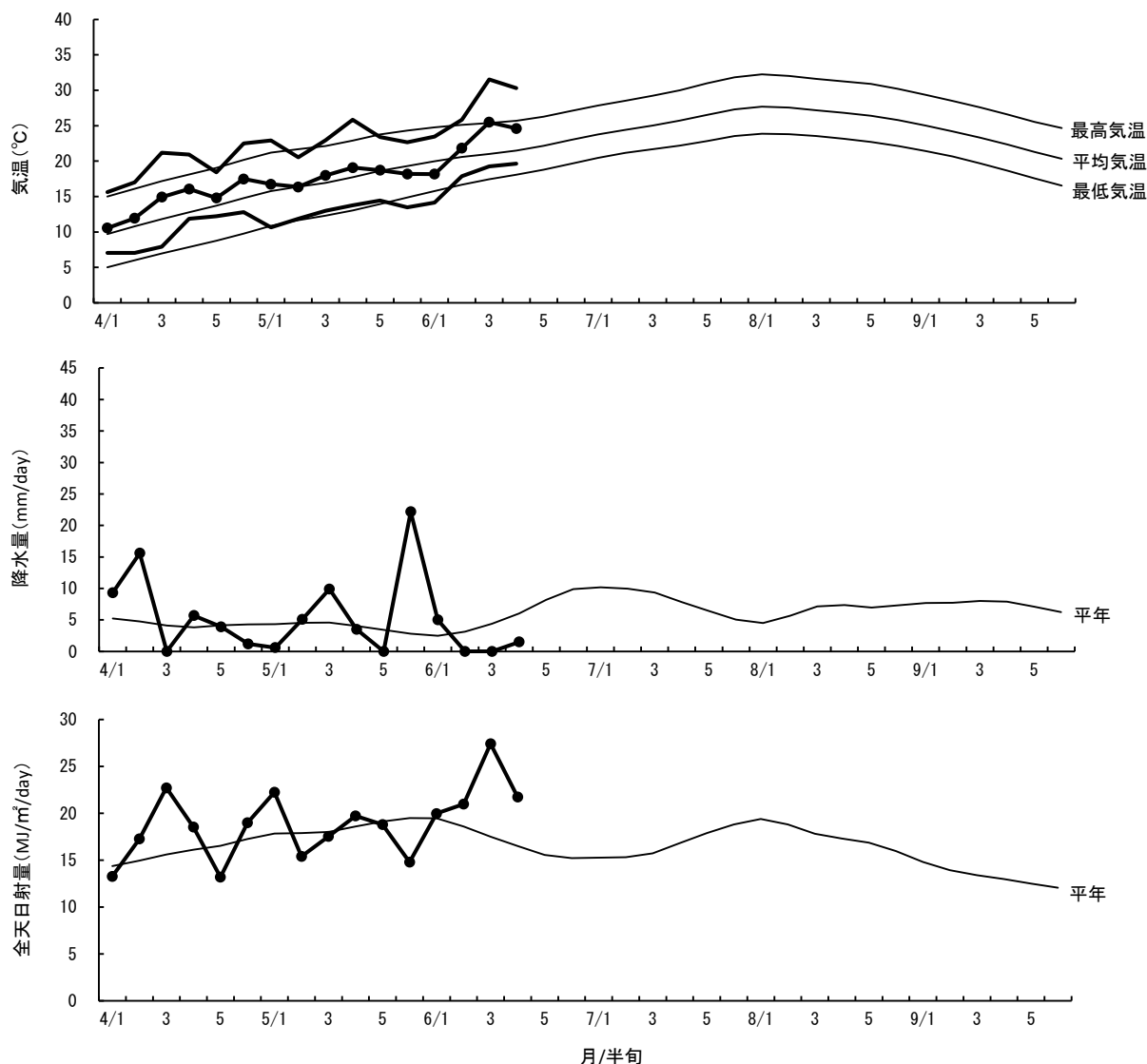


図1 令和6年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

(1) てんたかく

平年に比べ、草丈やや長く、茎数はやや多く、葉色は並、葉齢は0.4葉進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、葉色は並、茎数はやや多くなっている。

幼穂形成期は、平年より1日遅い6月25日頃と見込まれる。

今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日遅い7月16日頃と見込まれる。

表1 「てんたかく」の生育状況（6月25日 生育観測ほ）

年次	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD		
R6	5月2日	58.1	32.6	695	11.6	4.4	41.4	(6月25日)	(7月16日)
R5	5月3日	54.3	27.7	588	11.2	4.4	40.6	6月24日	7月15日
平年	5月4日	55.3	30.4	653	11.2	4.4	40.5	[6月24日]	[7月15日]
前年比・差	-1	107	118	118	0.4	0.0	0.8	(+1)	(+1)
平年比・差	-2	105	107	106	0.4	0.0	0.9	(+1)	(+1)

注1) 平年 : H26~R5の平均、ただし幼穂形成期、出穂期の平年値[]は、R2~5年の平均

注2) 本年の幼穂形成期および出穂期は予測値

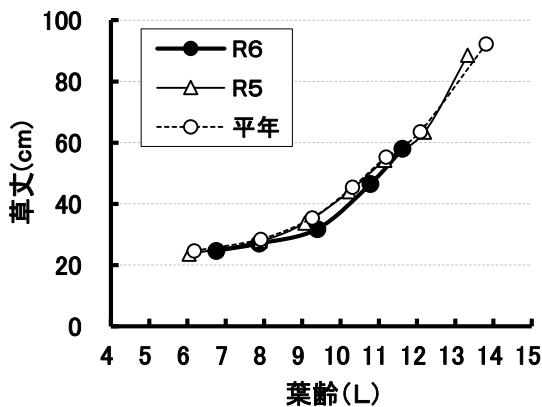


図2 草丈の推移（生観てんたかく）

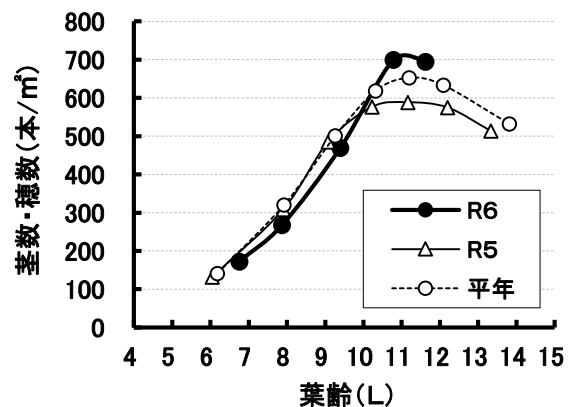


図3 茎数の推移（生観てんたかく）

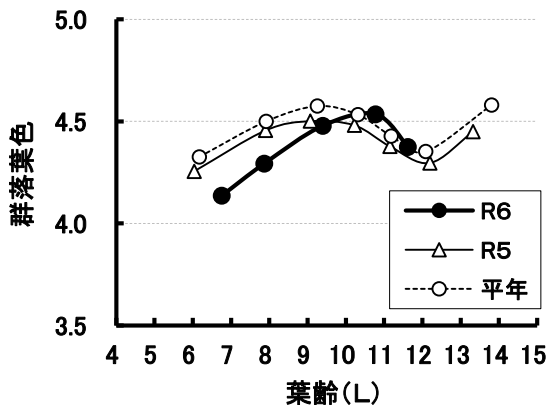


図4 葉色の推移（生観てんたかく）

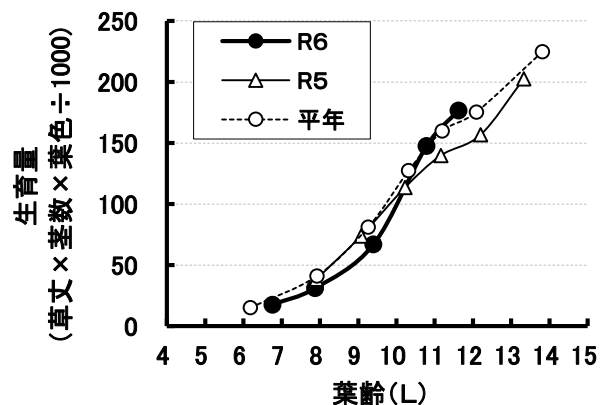


図5 生育量の推移（生観てんたかく）

(2) コシヒカリ

平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉齢は0.2葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並となっている。

表2 「コシヒカリ」の生育状況（6月25日 生育観測ほ）

年次	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月14日	48.2	25.6	545	10.4	4.2	38.3
R5	5月13日	48.8	22.5	489	10.2	4.2	38.0
平年	5月14日	47.2	24.8	539	10.2	4.3	39.0
前年比・差	1	99	114	112	0.2	0.0	0.3
平年比・差	0	102	103	101	0.2	-0.1	-0.7

注) 平年 : H26~R5の平均

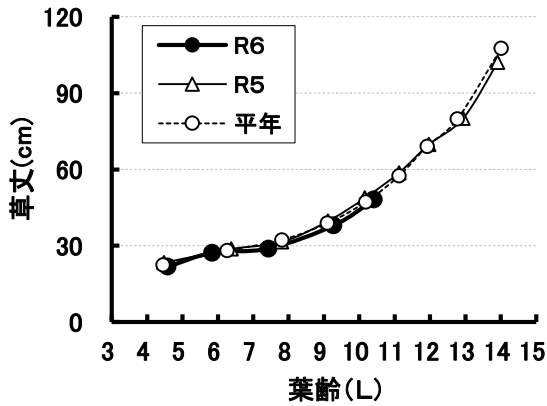


図6 草丈の推移（生観コシヒカリ）

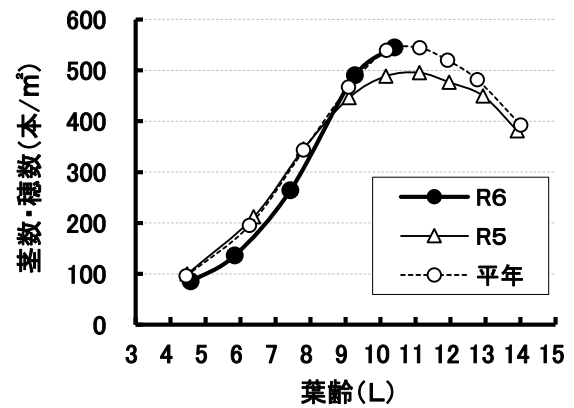


図7 茎数の推移（生観コシヒカリ）

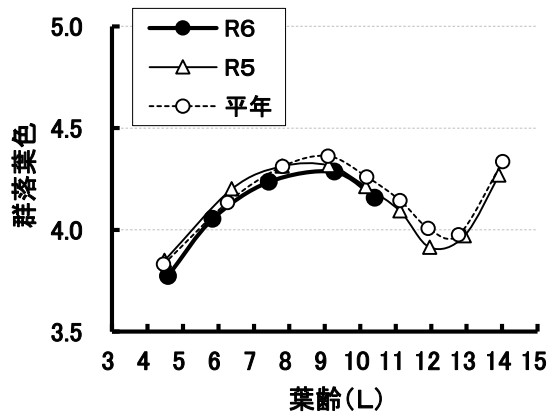


図8 葉色の推移（生観コシヒカリ）

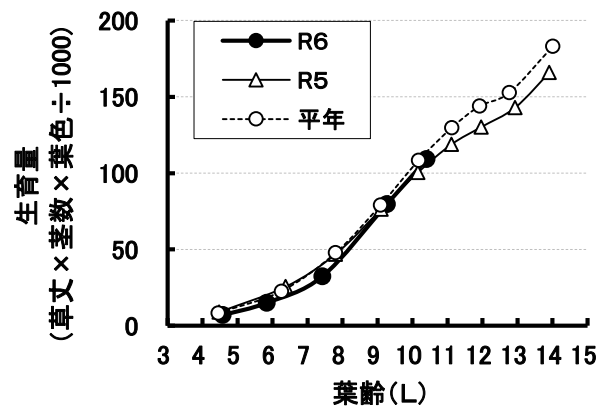


図9 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(3) てんこもり

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉色は並、葉齢は0.6葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈は並、茎数はやや多く、葉色はやや濃くなっている。

表3 「てんこもり」の生育状況(6月25日 生育観測ほ)

年次	田植日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月8日	44.2	38.1	723	11.8	4.3	39.9
R5	5月10日	39.4	33.6	649	11.0	4.3	39.1
平年	5月8日	41.0	34.8	664	11.2	4.3	38.8
前年比・差	-2	112	114	111	0.8	0.0	0.8
平年比・差	0	108	109	109	0.6	0.0	1.1

注) 平年 : H26~R5の平均

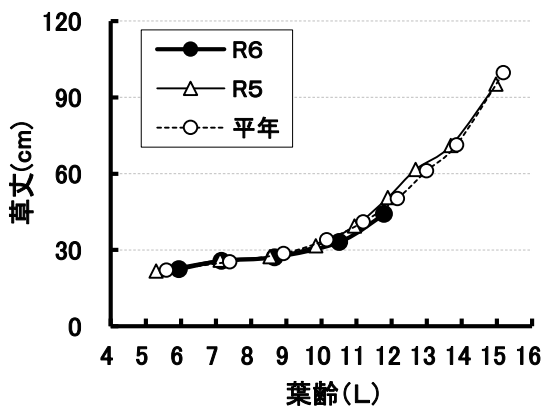


図10 草丈の推移(生観てんこもり)

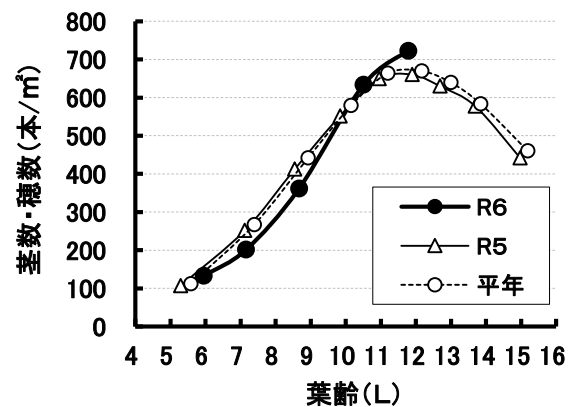


図11 茎数の推移(生観てんこもり)

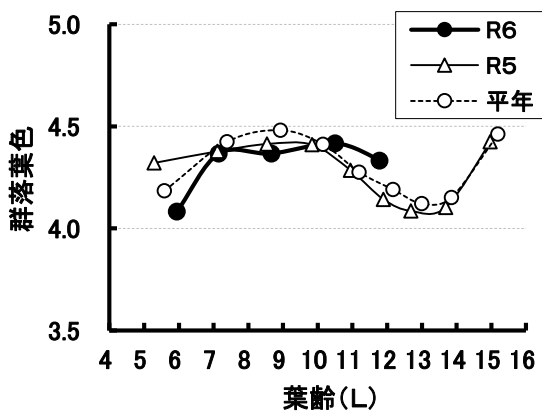


図12 葉色の推移(生観てんこもり)

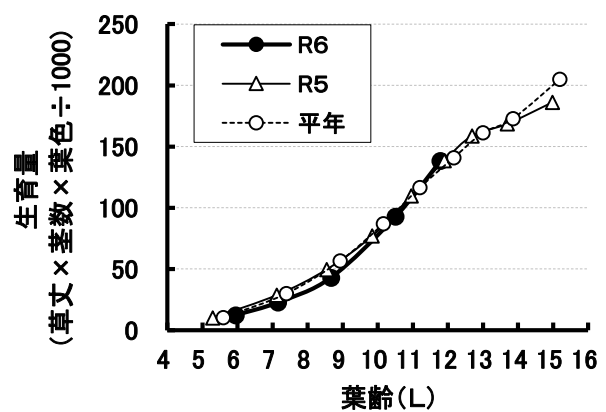


図13 生育量の推移(生観てんこもり)

3 当面の技術対策

- ・「コシヒカリ」、「てんこもり」は、中干し後の間断かん水で、幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3 cm 程度の土壌硬度に誘導する。
- ・幼穂形成期以降は、稲体活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・畦畔等の草刈りは確実に（一斉草刈り日：6月29日～6月30日）。

(1) 「てんたかく」の管理

- ・現在、茎数が多いため、幼穂形成期以降は飽水管理を基本とするが、葉色が濃い場合は倒伏が懸念されることから、間断かん水を行う。
- ・肥効調節型基肥栽培では、過剰籾数や倒伏を防ぐため、安易な追肥は原則施用しない。ただし、現在の葉色が 4.0（砂壤土 4.2）より薄い場合は、速やかに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追肥を行う。
- ・分施肥系では、穂肥は表 4 を目安に土壌区分や生育量に応じて施用する。

表 4 「てんたかく」の土壌区分別穂肥窒素施用量の目安 (kg/10a)

土壌区分	1回目	2回目
	施用時期 幼形期	施用時期 幼形期の10日後
沖積 埴壤土	1.5	1.5
埴土	1.5	1.8
砂壤土	2.0	2.0
洪積 埴壤土～埴土	1.5	1.8

注) 以下の条件では1回目の穂肥を施用しない。

埴土～埴壤土：幼穂形成期の葉色 4.3 以上かつ茎数 650 本/㎡以上

砂壤土：幼穂形成期の葉色 4.5 以上かつ茎数 700 本/㎡以上

(2) 「コシヒカリ」の管理

- ・葉色の急激な低下を防ぐため、中干し後の間断かん水で田面を乾かしすぎないように管理し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ 3 cm 程度」に誘導する。ただし、葉色が 4.5 を超えるほ場では、幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。
- ・安易な追肥は、過剰籾数や倒伏を招くので原則、施用しない。
- ・作付前にケイ酸質資材や加里資材を散布していないほ場では、積極的にこれらの資材を施用し、稲体の充実を図る。

(3) 「てんこもり」の管理

- ・葉色の急激な低下を防ぐため、中干し後の間断かん水で田面を乾かしすぎないように管理し、幼穂形成期頃までに土壌硬度を「足跡の深さ 3 cm 程度」に誘導する。
- ・幼穂形成期前に葉色が 4.0（砂壤土 4.2）より薄い場合、速やかに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追肥を行う。

(4) 病虫害防除の徹底

ア 斑点米カメムシ類

- ・斑点米カメムシ類が平年に比べかなり多く発生しているため、草刈りを徹底する。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地等がある水田では、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。

草刈り運動期間：6月28日（金）～7月7日（日）



一斉草刈り日：6月29日（土）～6月30日（日）

イ ニカメイチュウ

- ・要防除水準（防除時6月中下旬のさや枯最盛期被害茎率：3%）に基づき防除要否を判定し、適期に薬剤を散布する。
- ・前年に被害が多く見られた地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。

ウ いもち病

- ・現在、県内でいもち病の発生は確認されていないが、BLASTAM情報（農業研究所）を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）はこちらから  
（農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載）

エ 紋枯病

- ・前年多発したほ場で箱施薬剤を施用していない場合は、出穂3～4週間前（粒剤）または穂ばらみ期（粉剤、液剤等）の防除を確実に行う。
- ・本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し（表5）、適期に薬剤が株元に付着するように散布する。

表5 紋枯病の防除要否判定時期（薬剤散布適期）と要防除水準

品 種	薬剤散布適期 （防除要否判定時期）	要防除水準 （発病株率）
てんたかく	出穂14日前頃	5%
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり	出穂7日前頃	(15%)*

※「てんこもり」は基本防除とする。発病株率は追加防除の目安（暫定値）。

オ 白葉枯病

- ・常発地等では、出穂3～4週間前にオリゼメート1キロ粒剤を散布する。
- ・ほ場が浸水や冠水した場合は、白葉枯病が発生しやすくなるため薬剤を散布する。

カ 稲こうじ病

- ・常発地や前年に発生が多かったほ場では、出穂の10～15日前（銅剤は出穂の10～20日前）に薬剤防除を行う。

キ 着色米（斑点米を除く）、ごま葉枯病

- ・稲体活力の低下により発生が助長されることから、適正な施肥、水管理を行う。

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈は長く、茎数は多く、葉色はやや濃く、葉齢は0.3葉進んでいる。
 葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈は並、茎数はやや多く、葉色はやや濃くなっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月25日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R6	5月17日	43.6	27.9	608	10.1	4.5	42.1
R5	5月16日	39.3	24.1	523	9.5	4.4	40.1
近年	5月15日	39.4	25.6	550	9.8	4.4	41.0
前年比・差	1	111	116	116	0.6	0.1	2.1
近年比・差	2	111	109	111	0.3	0.1	1.1

注1) R6：11ほ場平均（生育観測ほ：4ほ場、新品種実用化・プラ削減 対照区：7ほ場）

注2) 近年値：H29～R5の平均

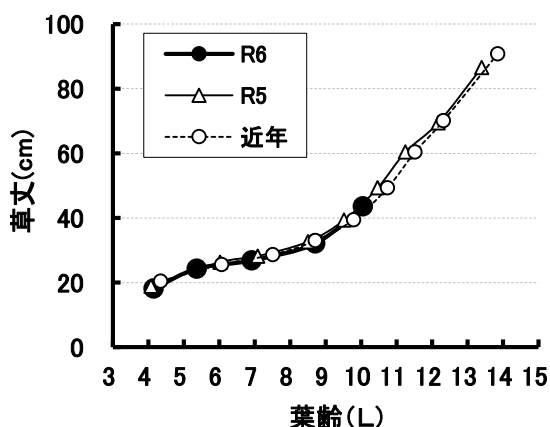


図1 草丈の推移（富富富生育観測ほ等）

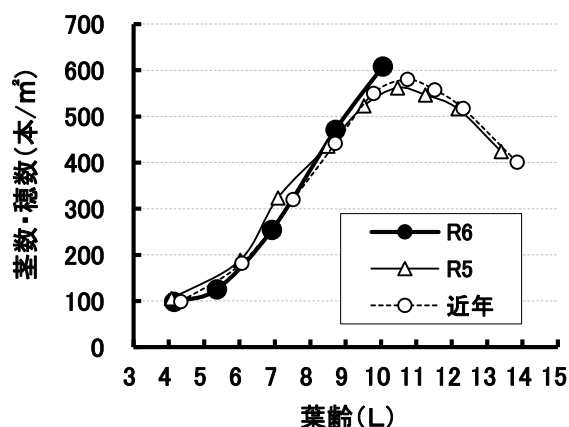


図2 茎数の推移（富富富生育観測ほ等）

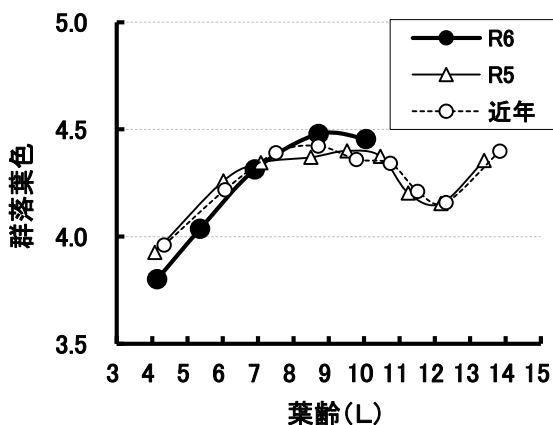


図3 葉色の推移（富富富生育観測ほ等）

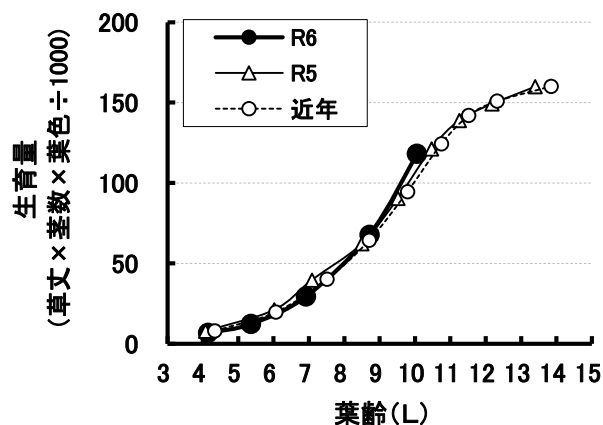


図4 生育量の推移（富富富生育観測ほ等）

2 当面の技術対策

- ・ 現在、茎数がやや多く、葉色がやや濃いことから、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行う。

(1) 水管理

- ・ 過剰籾数を防ぐため、中干し後は幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を行い、幼穂形成期の SPAD 値 35（群落葉色 4.0 程度）に誘導する。

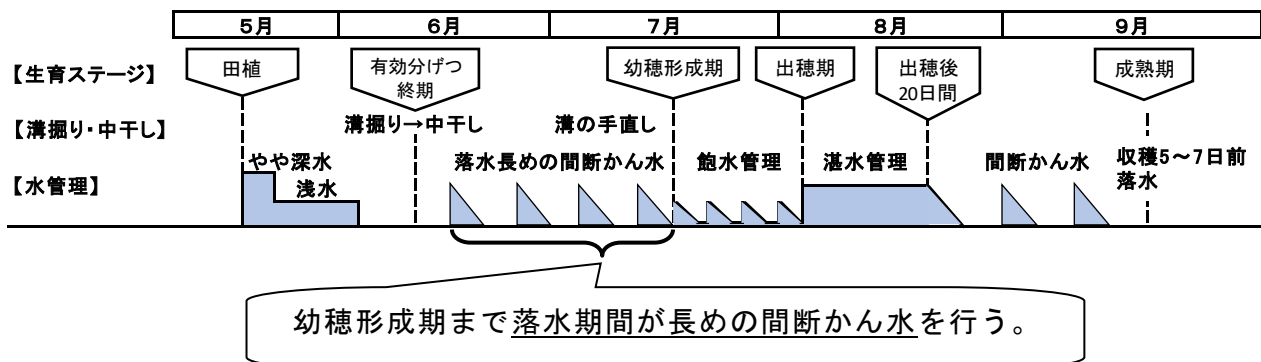
表2 幼穂形成期の生育の目安

草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	SPAD	群落葉色	生育量	
				SPAD	群落葉色
62	580	35	4.0	125	140

注) 生育量 SPAD : 草丈×茎数×SPAD÷10,000

群落葉色 : 草丈×茎数×群落葉色÷1,000

<水管理のイメージ>



(2) その他の管理

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるよう留意する。